

やりたいことをやる  
それが予想外の結果に

写真集「南部馬の里」を出版

遠藤 広隆さん

エンドウ・ヒロタカ 37歳 西根寺田



昭和53年生まれ。平館高校卒業後、日本写真芸術専門学校(東京都)で写真を学ぶ。現在、盛岡市内ホテルでのプライダル写真を手掛ける。約18年間撮り続けた「馬」をテーマにした写真集を出版。B型のおひつじ座

「まさか写真集を出せるとは予想だにしていまませんでした」と、顔をほころばせるのは、4月に写真集『南部馬の里』を出版した遠藤広隆さん。

「専門学生の時に、一つテーマを決めて撮り続けるという授業があり、そこで『馬』を選びました。それから現在まで、フィルムカメラで農耕馬を中心に白黒写真を撮り続けています」と、語る遠藤さん。30歳ごろ、撮影した写真を出版社に売り込んだこともありましたが、いい返事は得られず。「その時、これからは自分がおもしろいと思うことをしようと決めました」と、当時を振り返ります。

その後撮り続けた写真が、盛岡タイムスの編集者の目に留まり、平成23年から同新聞内で写真エッセー



約50枚の写真と文章がつづられた写真集『南部馬の里』

の連載を開始。そして、その連載の約半分をまとめたものが写真集となりました。「今思えば、力まずに撮影できたことが良い結果になったのかもしれない」と、はにかみます。

写真集について「近年、農耕馬は少なくなりました。農耕馬という存在があること。そして共に生きている農家の人たちの姿を見てほしいです」と、静かに熱い思いを語りました。

\*写真集『南部馬の里』は、B5判変形112頁、1,852円(税別)で、岩手復興書店から発行

今月の表紙 真剣なまなざしで苗植える

畑保育園の田植え体験が5月27日、保育園付近の水田で行われました。

田植え体験には、園児のうち3歳から5歳までの5人が参加。はだして水田に入った園児たちは、泥の感触に喜びの声を上げていました。保護者の代表から苗の植え方を教わると、園児たちは、服が汚れることも忘れ、夢中になって田植え作業を行いました。



田植えを終えて喜ぶ園児と関係者ら

編集後記

私の地元沖繩では、例年3月下旬ごろから海開きが各地で行われますが、こちらでは、山開きが行われる日、八幡平を皮切りにスタート。取材で私も登りましたが、頂上に近づくにつれ、初夏・夏山という言葉から連想できない雪景色が現れ、驚嘆。カメラを構えるも、登山隊に遅れをとってしまい、雪道を猛ダッシュ。山が見せるさまざまな表情を追い求めて、これからの山に挑みますが、まずは体力向上に努めます。

◎

\*広報はちまんたい 6月4日号(No.221)の印刷経費は1部48.6円、発行部数は10,300部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、市役所市長公室(☎・内線1210)まで。